

## 第18期第11回常任理事会議事録

**日時** 昭和50年9月8日 14.00~17.00  
**場所** 気象庁観測部会議室  
**出席者** 小平, 浅井, 朝倉, 大井, 河村, 北川, 二宮, 野本, 丸山, 各常任理事

**報告**

## 〔庶務〕

- 7月18日, 気象庁図書管理室から気象集誌の53巻4号から260部を240部に削減する通知がきた。
  - 7月21日, 日本気象学会九州支部から役員の一部変更について通知がきた。常任理事安藤隆夫が浅田暢房に理事河村四朗が森安茂雄に変更。
  - 7月21日, 定款の一部変更(会費値上げ)について, 6月26日付けで文部大臣あて申請したところ7月16日付けで認可された。
  - 8月2日, 日本科学者会議からパンフレット「科学研究者の地位に関する勧告全文と解説」の購読と普及についての依頼がきた。(1部100円)
  - 8月18日, 日本気象学会関西支部から例会講演要旨集及支部ニュースについて, 月例会を例会に改正し, 例会講演要旨集の創刊号を発行された。
- 気象百年史の再版予約申込者は, 気象百年史1691冊資料編1686冊となった。
  - 昭和50年分の会費滞納者120名に対し, 督促状を出した。月末日までに68名が会費を納入し, 未回答者が46名。学会誌は, 7月号から送付を停止。退会者は10名。
  - ペリオデイカ, ヤポニカが8月11日に宛名印刷にきて, 謝金3114円(1038枚×3円)を送金。
  - 日産自動車株式会社が10月から賛助会員(年額10万円)に入会。

## 〔会計〕

気象百年史印刷発注1770冊, 30冊は出版社から無料提供。初版の正誤表を無償で提供させ, また再版は, 無料で訂正の上発行。

気象集誌に対する文部省助成金は, 査定額112万円。

## 〔講演企画〕

夏期大学, 136名が参加し盛会であった。入会申込者が17名に達した。

## 〔長期計画〕

大学における気象教育の実体を調査, アンケートを今年中にとりまとめる。

## 〔用語〕

学術用語集気象学編は, 10月中に発行される。

**議題**

- 学会奨励金受領候補者について  
 奨励金受領候補者選考委員会担当理事から審査結果の報告あった次の2名を承認, 全理事に書面審査を依頼する。  
 鈴木和史(釧路地台)「渦型エコーについて」  
 岸田和博(米子測)「山陰地方に顕著な気象現象をもたらしたメソじよう乱の解析的研究」  
 今回は, 候補者が少いが応募件数が増えてくることが望ましい。3名のうち1名は, 気象官署以外の人, すなわち学校の教師を入れたい。  
 前回応募者が多くて, とりあげられなかった場合には継続して応募するよう担当理事に連絡する。
- 「第13回理工学における同位元素研究発表会」の共同主催について  
 承認する, 気象研究所矢野直会員を運営委員に推薦, 分担金は2,000円。
- 講演申込みについて  
 講演企画委員会で検討した結果次のような方法をとることにした。  
 ア. 予稿集の用紙を「天気」にとじ込む。  
 イ. 申込みと同時に予稿を提出できない研究発表は受け付けない。  
 ウ. 期日(講演申込み日)は従来通り。  
 エ. 申込件数は, 原則として1人2件まで。  
 オ. 利点  
 a. 大会運営がスムーズになる。 b. 予稿紙郵送代が節約できる。 c プログラム編集上役立つ。 d. 労力が軽減される。
- 外国文献の残部の処理について  
 分冊でも頒布する。1冊, 1,500円, 送料は実費。承認事項 勝守真ほか40名の入会を承認。